

No.18

1995年

(平成7年)

同窓会だより

— 発行 —

旭川荘厚生専門学院
同窓会

岡山市祇園地先

TEL (086) 275-0145

FAX (086) 275-3283

— 編集責任者 —

同窓会会長 堀内 絹江



平成6年度 旭川荘厚生専門学院 同窓会総会

形ある物は失ったけれど

同窓会長 堀内 絹江

一月十七日の阪神大震災から約八ヵ月が経過しました。心よりお見舞い申し上げます。また、お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りいたします。

未だその傷痕でお苦しみの方々に、一日も早く、笑顔が戻ってくることを願ってやみません。同窓生の皆様の中にも震災にあわれた方がいらっしやいましたら是非一報下さい。

多くの方がこの惨事で傷つき不安な日々を送っている心の隙間に、集団殺人事件や拉致事件といった反社会的な事件で日本中が恐怖の渦に巻き込まれ、「生命」の尊さを思い知らされたことと思います。その「生命」を預かる人達、生きている私たちに多くの教訓を残して頂いたように思うのですが、いかがでしょうか。

形ある多くの物を失ってしまったましたが、決して奪われなかったもののひとつに「人の心」があるとは言えないでしょうか。その「心」を互いに温め、尚一層、人と人の絆を深めてゆき、新しい街に変身してゆくのではないかと感じたい私です。

昨年九月の総会開催にあたり、多数のご出席を頂き盛大なうちに終了することができました。心から厚くお礼申し上げます。また、旭川荘理事長・川崎医療福祉大学学長江草安彦先生から「医療福祉と人材育成への期待」と題して講演を頂きました。上海のお話から医療と福祉、そして教育の統合の必要性を感じました。それに従事する私達は看護婦であり、保母であり、介護福祉士でもあって、お年寄りや障害者そして幼い子供たち一人一人に対して、決して一つの職業人であってはならず、社会のニーズを先取る目を養う必要性を教えられ、母校の教育体系に誇りを感じるものです。

「人の気持ち」を形で表すことは難しいのですが、「人の心」をもって対する相手にまることが表現し、前

進してゆきたいものです。今年は支部会開催の年です。改めてご案内致しますが、万障御繰り合わせの上、何卒御出席承りますようお願い申し上げます。

尚、関西支部会におきましては、協議の結果、義援金を送ることに変更、今年度は中止となりましたが、二年後の再開を楽しみにしております。

白玉蘭賞

受賞

旭川荘
江草 理事長

中国・上海市から医師ら研究生を受け入れるなど同市の保健福祉推進に貢献したとして、社会福祉施設・旭川荘の江草安彦理事長より川崎医療福祉大学学長に上海市の友好賞「白玉蘭賞」が贈られた。

同賞は、上海市が市の発展などに功績のあった外国人顕彰のため五年度設けた。江草理事長への受賞理由は「研修生などを受け入れる一方、障害者とボランティアの訪中団を毎年上海に派遣。それらの交流活動を通じて、上海の障害者・高齢者福祉のシステムづくり、職員養成などに貢献した」というものである。

『人間の世紀』への準備

学院長 末光 茂



今世紀も残すところ五年となりま
した。来るべき世紀は超高齢社会に
なることが避けられません。それに
備えるため国では、新ゴールドブラ
ンやエンゼルプランなどの施策をつ
ぎつぎと策定し、具体化を進めてい
ます。医療機関や福祉施設など、い
わゆる「箱もの」の整備とともに大

事なのは、それらを実のあるものに
できる専門職の育成と地域で支える
市民意識の高まりです。

邦夫氏は、「20世紀は科学の世紀で
あったが、来るべき21世紀は人間の
世紀であろう」と述べています。専
門知識と技術にあわせ、人間性豊か
な医療福祉専門職を一貫して養成し
てきた学院の役割は今後一層期待さ
れるものと考えます。それだけに時
代の変化とニーズに的確に対応し、
あわせてそれらを先導するような視
点での教育内容の充実をはかつてい

かねばなりません。
今年度は保母資格を有する学生を
対象に一年間で介護福祉士の国家資
格を取得できる「福祉研究科」を新
設し、好評なうちにスタートできま
した。

「福祉レクリエーションワーカー」、
「身体障害者スポーツ指導者」、
「医療管理士」などの認定校として
の認可も得ました。教職員も、長年
お世話になった方々をお送りする一
方で、専門領域と職歴に幅をもつ大
勢のすぐれた方々に加わって頂きま
した。老朽化した方々がある建物設備も
大規模な工事をすすめ、リフレッシュ
をはかりつつあります。

同窓生各位には、守るべき伝統を
尊重しつつ、新しい世紀にむけ変身
を遂げようとしている厚生専門学院
を直接お訪ね頂き、教職員や学生に
励ましを頂くとともに、それぞれの
地で、学院へのさらなるご支援を頂
けますようお願い申し上げます。

福祉情報科
橋本 勇人先生
(六月一日付)
沖本 二郎先生
(六月一日付)

人事異動について

▼退任の先生 (三月三十一日付)
副学院長 鴨野 元一先生
(いづみ寮寮長へ)

顧問 (旭川荘顧問・研修センター所長)
山本 博明先生
看護科 山下 幸恵先生
(旭川療育園へ)

講師

長安 一郎先生
阪本 晴夫先生
民實 政枝先生
岡本 克敏先生
沖永 裕先生
直原日出男先生
佐古 文栄先生
富田あゆみ先生
(二月三日付)

臨時職員
書記

技 師 田野 吉彦先生
(五月三十一日付)
▼新任の先生 (四月一日付)
庶務課庶務主任 鯉波 正三先生
福祉情報科教務主任 松本 好生先生
(いづみ寮指導主任から)

介護福祉科

堀本 博子先生
吉田 佳代先生
池田 明子先生
国定 美香先生
(同窓生)

看護科
(旭川児童院から五月一日付)
中川 裕美先生
(五月一日付)


学院だより

☆入試情報

入学試験期日の決定(全学科同一日)
推薦入試 十一月十二日(日)

一般一次入試 十一月二十八日(日)

一般二次入試 三月 三日(日)

○試験場は、すべて本学院です。

(推薦のみ那覇市でも実施)

○願書受付は、試験日の約一ヶ月前からです。

○入試要項・願書は学院入試事務室宛、郵便為替(千円)同封の上請求のこと。

☆主な年間行事

★入学宣誓式(4月5日)

★児童福祉科六名、介護福祉科一

〇三名、福祉情報科二四名、福祉研

究科一五名、第1看護科九七名、第

2看護科五五名、総計三五五名が入

学された。

★高校生対象の講習会

高等学校在学中の女子高生を対象に開催。学院が協力する。

★看護学校一日入學

★ボランティヤスクール (6月6日)

(8月1日・8月3日)

★修学旅行(9月5日・9月8日)

各科の二年生と第2看護科一年生がクラスを離れて実施。デンマーク、上海、北海道、関東、京阪神、四国、沖縄の7方面へ希望別に参加し、行き先で社会福祉施設や病院の見学と交流を行います。

★キャンパスサービス(10月18日)

児童福祉科、介護福祉科、福祉情報科、福祉研究科の各一年生が学院講堂に於いて、保護者・来賓臨席のもと、福祉の道へ進む決意を固める。

★戴 帽 式(10月11日)

第1看護科、第2看護科の一年生が学院講堂に於いて、保護者・来賓臨席のもと、看護婦(士)の道へ進む決意を固める。

★第24回学院祭(11月2日・3日)

学院生の自主的活動によって実施する。各科・有志の研究成果や出し物が中心になり、地域・施設の方々もたくさん見学に訪れます。

★卒業演奏会(2月27日)

児童福祉科二年生の学習の総まとめとして、岡山県総合福祉会館にて開催する。

★卒業証書授与式(3月15日)

卒業予定者三〇〇余名の卒業を、多数のご来賓・ご家族の皆様を学院講堂に迎え、共に皆さんの前途を祝福する。

同窓会 員 数

平成7年3月現在(平成7年3月卒業生)

同 窓 生 総 数	3,919名	(321名)
保育科・児童福祉科	925名	(42名)
福祉科・介護福祉科	340名	(102名)
福祉情報科	91名	(31名)
第1看護科	1,197名	(88名)
看護科・第2看護科	1,366名	(58名)

阪神・淡路大震災の

ボランティア活動に参加して

第2看護科教務主任

江口 瞳

一月十七日の阪神・淡路大震災から半年、新聞紙上では復興のニュースが報じられていますが、家族や家財を失い、今なお住まいの確保すら出来ず、避難所での生活を余儀なくされている方々も多いと聞きます。この大震災により大きな被害を受けた皆様に心からお見舞い申し上げます。

震災から十日後、本学院でもこの事態に対し何か出来ることをと、このことで、学生ボランティアの数名が現地向かいました。学生が現地向かい、どこにどのように行き、何をしたらいいか、また仮に行けな方法で行けるのか、また仮に行けなとして自分たちが何ができるのだろうか、課題もたくさんありました。このような状況から、教員や社内職員によるボランティアのメンバも加わり、学校としての組織的なボランティア活動が開始されました。私も、その一人として参加させていただきました。

ボランティア班は、毎日交替制で合計六班編成され、活動場所は兵庫中学校でした。神戸の市街地に入っていくと、あたりは一面倒壊した家屋で、目を覆いたくなるような光景でした。私たちは、互いに言葉も出さず、絶句したまま、車窓に目を向けていました。車がキロメートル進むのが非常に長く感じられました。やがて兵庫中学校に着くと、そこでは、すでに黒

住教のボランティアの方々が働き出し、ため活動しておられました。また、凍てつく冬の空のもと、校舎の外では気ぜわしく動いている中学校の先生方の姿がありました。私たちは、先生方に活動内容を相談し、トイレの清掃を中心に環境整備にあたりました。初日のボランティアの学生から、水が一滴もなく自分たちの日頃の生活状況とは予想をはるかに越えていたというのを聞いていました。ボランティア開始後四日目(震災から二週間後)に水道が使えるようになり、復興状況が窺えました。私たちは、持参していた清掃用具をもって、建物の中に入って行き、段ボールを敷き、毛布をかぶって横になっていた被災者の方々があふれていました。その空間をぬって建物内に入り、それぞれ懸命にトイレの清掃にあたりました。中学校の先生によると、日頃は、四百数名の中学校だそうですが、千五百〜六百人の被災者の方々がトイレを使用するので、ボランティアの方が朝夕に清掃しても追いつかないということ、とても感謝されました。

岡山支部だより

岡山支部長 西野 順子

梅雨も過ぎ去り、暑い夏がやってきました。同窓会会員の皆様、お元気で過ごしてはいかがでしょうか。職場、家庭で活躍、奮闘されておられることと存じます。

本年2月に、第4回岡山支部会を開催の予定に致しておりましたが、1月17日に阪神大震災に見舞われましたので、見送らせていただきました。

改めて、6月に役員会で、平成8年2月開催予定となりました。詳しい内容につきましては、後日ご連絡させていただきます。

3年ぶりの支部会となりますので、楽しいひとときをすごしたいと考えております。

是非、お誘い合わせのうえご参加下さい。役員、諸先生方一同お待ちしております。皆様ご健勝にお過ごし下さいませ。

旭川荘同窓会広島県支部会のご案内

月 日	平成7年10月21日(出)~22日
場 所	甲山ふれあいの里 (08472-4-1188) 広島県世羅郡甲山町小谷苦谷山
日 程	前日より参加 21日 14:30 現地集合 15:00~17:00 テニス 18:30~ 恩師・同期との語り 同窓会会長講演 「詩集刊行によせて」 日曜参加 11:00 支部総会 初代支部長講演 「暮らしと健康」 12:30~ パーベキュー
費 用	入場料 大人 300円 子供 200円 宿泊1泊2食 大人 7,100円 子供 5,500円(宿泊される方) 支部会運営費 会員のみ 3500円(昼食代込み) 家族の昼食は別途
問合せ先	松田恵尚まで 自宅 0849-72-4139 勤務先 0849-31-1111 福山循環器病院

同窓会広島県支部会のご案内を上記の通り申し上げます。同窓会会員のみなさま、毎日忙しく活躍のことと存じます。世の中の渦中もさることながら、看護・福祉界においても、その原点を見据えることの大切さを痛感されていることと存じます。今こそ、大地に腰掛け語り合うときではないでしょうか。

そこで、今回大自然の中でゆっくり語り合え、のんびりできる同窓会を企画いたしました。日曜日、昼食だけでも結構です。県外の方もぜひご参加ください。修学旅行のやり直しの気分で、あなたのご参加をお待ちいたしております。

家族でご宿泊を希望される方は、早めにご連絡くださるようお願いいたします。

詩集

「あした天気になあれ」

堤 史(堀内絹江)

堀内会長の処女出版が七月発刊となりました。幼い子供たちの姿を通して、大人へのメッセージを綴ったものです。江草理事長からのお言葉も載せており、皆様にお勧めしたいものと思いいご紹介致します。

震災から半年を経過した今、再び今回のような災害が起こらないことを願うものです。被災者の方々の受けた傷の深さははかりしませんが、一日も早くもとの生活に復帰されまことをお祈り申し上げます。

同窓生からの

おたより

保育科・児童福祉科

保育科 大月 範子 (岡山市
第19期生 八幡町)

学院を卒業して、早四年余りの月日が経ちました。先生方、同期生の皆様お元気でお過ごしでしょうか。また卒業生の皆様には、各方面で活躍のことと思います。

思い返せば、私と学院との出会いは、私が高校三年生の夏に音楽講習会に参加した時から始まり、そして学院での学生生活、様々な仲間との出会い、実習、卒業演奏会、今になって思えば楽しかった日々でした。そして、卒業して社会人となつてみて初めて、自分の未熟さ、勉強不足を痛感し、責任の重さと厳しさを実感しております。しかし、よき先輩、後輩に囲まれており、また寮生の方々の純粋さに接する中で、私自身学ぶ事の多い毎日をお過ごししております。

最後になりましたが、学院のますますのご発展を心からお祈りしております。

福祉科・介護福祉科

介護福祉科 三原右妃子 (岡山市
第6期生 長岡)

早いもので、私が特別養護老人ホーム

ム恵風荘で働き始めてもう三ヶ月が過ぎようとしています。四月、理事長より辞令を頂き、職員として働くようになり、初めの一ヶ月はまだまだ毎日が大変な日々でした。ところが二ヶ月目に入ってから、担当が決まり、仕事の流れが分かってくると、寮母という自覚が少しずつ持てるようになってきました。といっても新人だけに分からないことは多く、失敗も度々です。やはり学院での授業で学んだ事をそのまま生かすことは、なかなか難しく、先輩寮母さんより学ぶことは多いです。今のところ先輩、同僚とも良い人ばかりなので、その人達の中でいろんなことを吸収していき、自分の知識、技術を生かしていきたいと思います。

今、後輩たちが実習に来て下さる方がいつか先輩として胸を張れるようになればと思います。

福祉情報科

福祉情報科 下井 万理 (真庭郡
第1期生 湯原町)

前途有望な後輩たち、ご活躍中の各先輩方、お世話になった先生方、御無沙汰しております。いつのまにか私が卒業してもう三年になります。福祉情報科の第一期卒業生として一般企業でプログラマーを目指したものの、あいにくの不景気で一年足らずの退職を経験しました。その後、運良く地元の町立病院の事務職に臨

時で就職でき、一年後には町職員(公務員)として医療事務をしております。結果的には学院で学んだことを仕事に活用出来るようになり、現在その病院で三年目になります。勤務なので、やはりハードな仕事です。けれども、窓口でおばあさんの話を聞き、トイレにこもりがちなF先生にやきもきし、病院内を走り回って看護婦さんにおられる日々は、それでも楽しいです。在宅ケア、デイケア、住民検診などもっともっと力を入れたいです。皆様も若さをフルに活用して、充実した日々をお過ごしくださいませ。

第1看護科

第1看護科 赤木恵津子 (岡山市
第7期生 (旧姓 片岡) 藤原町)

皆様、どのように過ごされてますか。私は卒業後九年目を迎え、今も現役で頑張っています。平穩な毎日ですがそのなかで少し考えさせられた体験を書きたいと思っています。

去年、七年間勤めていた職場を退職し、岡山市内の病院で働くことになりました。職場が変わることに際し、人間関係等で少しの不安はあったものの、何とかなるという思いと七年間の経験による小さな自信を持って行ってみようという、現実、心のジレンマに思い悩む毎日でした。その理由は、ある状況の中ではスベシヤリストとして働ける、そんな思いが、どこまで通用するかを考えたこともなかったからです。しばらくは自問自答の毎日で悩みました。でもその思いは、時間と同僚のアドバイスにより徐々に緩和されていき、その機関は約一年かかりました。

無駄な時を過ごしてしまったように感じますが、経過の中で自分自身を見直すことができ、その必要性を身をもって感じるようになりました。正しいこと、良いところは大事にして、反省点は改善していく。こんな簡単なことを忘れがちで、気づきにくいものですね。

まだまだ未熟な自分ですが、今の状況に慢心することなく、素直に振り返りながら、前向きに進んでいきたいと思っています。

第2看護科

第2看護科 中川 裕明 (総社市
第20期生 中央)

私は現在、川崎医療福祉大学で社会福祉を学ぶ大学生をやっています。

そして、講義が終われば岡山市内の精神病院で看護士として準夜勤務をし、もう三年になります。時に、夜勤が重なるとうとう講義中に睡魔と戦い悪戦苦闘しながらノートを執っています。

ところで、一月十七日の阪神淡路大震災は医療と福祉を学んでいる人間として、何でもいから手助けがしたい、少しでも役に立てばという心境が強くなり、震災五目目に医療ボランティアとして、神戸日赤病院で医療活動に参加しました。現地はまだ混沌としている状況の中、水道やガスが寸断された緊急事態での医療活動を経験し、また、他のボランティアの人達と話す機会もあり、私にとっては貴重な経験をさせてもらいました。また、現地で被災者の看護をしていて、「ありがとう」の声を掛けてもらい、看護士をしていてよかったと心から実感し、これからボランティア活動に参加したいと考えています。

編集後記

今回の「同窓会だより」は、担当者らが代わって初めての発刊になりました。

堀内会長をはじめ役員の皆様のご協力で行なうことが出来た。今後の「同窓会だより」の内容などについて、皆様のご要望やご意見をお聞かせください。

昨年も、この「同窓会だより」が移転先不明などで相当数返送されました。

一度返送されますと、以後の発送を見送っています。現名簿は、平成三年作成のものです。

新名簿作成の為、改姓、転居、勤務先変更など学院の「同窓会係」までご連絡をいただくようお願いいたします。尚、「同窓会だより」が届いていない人をご存知の方は、ご一報下さい。

旭川厚生専門学院
TEL(086)275-0145
FAX(086)275-3283

平成七年の卒業生の皆様には、名簿がお手元に届いている頃と存じますが、今後とも名簿を活用して、同窓会の輪を広げて頂きたいものと願っております。今後、移動の際には、名簿の裏表紙を利用して事務局へご連絡下さい。

残雪厳しい折、十分な睡眠と適切な栄養を取り、元気に過ごして下さい。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(野間・濱森記)